

福島復興本社における
賠償・除染・復興推進等に関する取り組み状況
～福島復興への責任を果たすために～

○ 原子力損害賠償の進捗状況	_____	1	～	3
○ 除染等推進活動状況	_____	4	～	5
○ 復興推進活動状況	_____	6	～	8
○ 流通促進活動状況	_____	9	～	10

原子力損害賠償の進捗状況について

<原子力損害賠償のご請求・お支払い等実績>

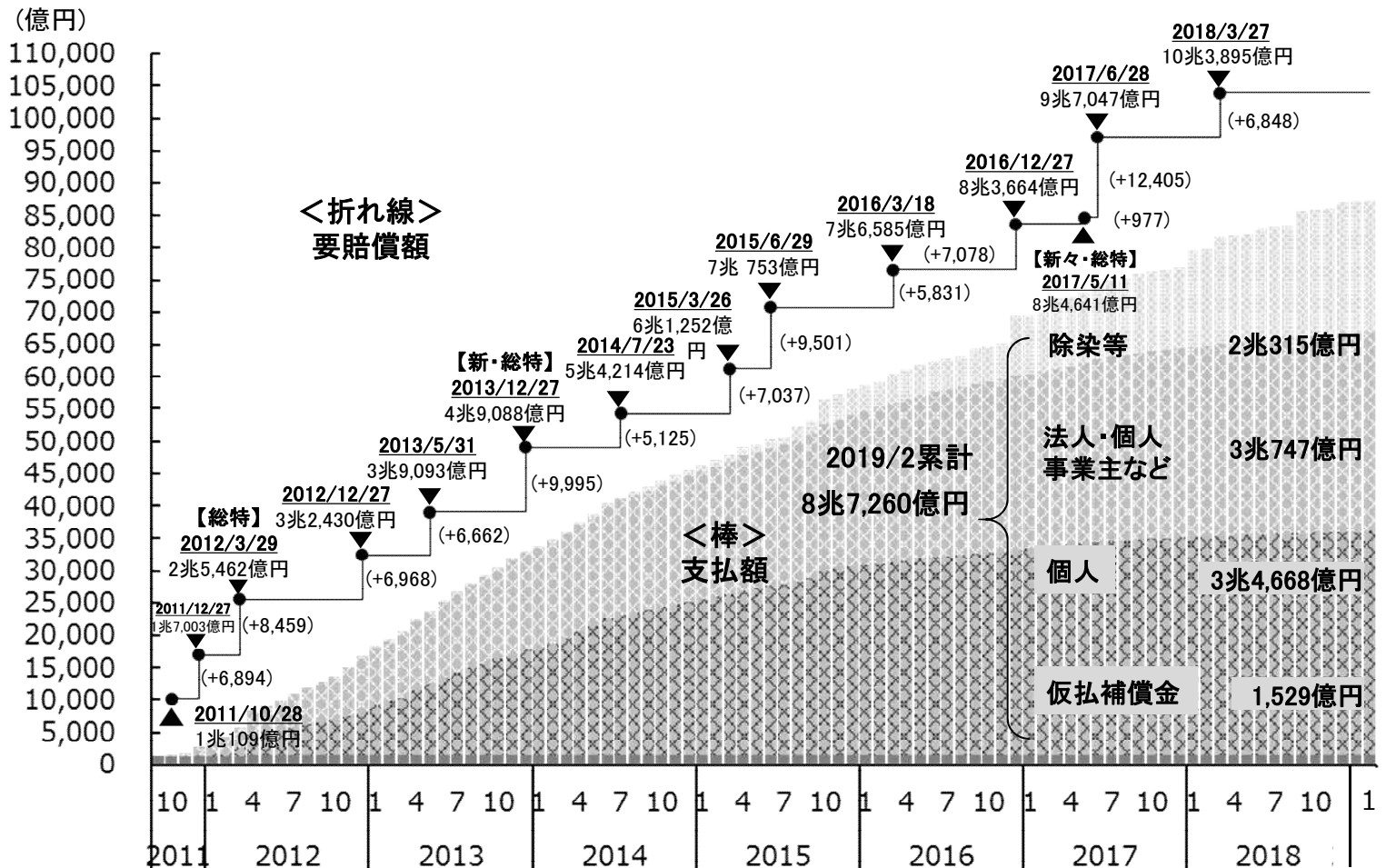
2019年2月28日現在

	個人 ※1	法人・個人 事業主など
ご請求について		
ご請求書受付件数(延べ件数)	約2,398,000件	約493,000件
本賠償の状況について		
本賠償の件数(延べ件数)	約2,270,000件	約424,000件
本賠償の金額 ※2	約3兆4,668億円	約5兆1,063億円
これまでのお支払い金額について		
本賠償の金額 ※2		約8兆5,731億円①
仮払補償金		約1,529億円②
お支払い総額		約8兆7,260億円①+②

※1 個人の自主的避難等に係る損害を含んでおります。

※2 仮払補償金から本賠償に充当された金額は含んでおりません。

<賠償支払額及び要賠償額の推移>



<賠償項目別の合意金額の状況>

	要賠償額<A> (3/27資金援助額変更申請)	合意いただけた実績 ^{※1} (2019年2月末現在)
I. 個人の方に係る項目	20,598億円	19,804億円
検査費用等	3,352億円	2,711億円
精神的損害	10,967億円	10,823億円
自主的避難等	3,626億円	3,626億円
就労不能損害	2,652億円	2,643億円
II. 法人・個人事業主の方に係る項目	29,657億円	29,067億円
営業損害	5,258億円	5,174億円
出荷制限指示等による損害及び風評被害	17,781億円	17,657億円
一括賠償（営業損害、風評被害等）	3,084億円	2,417億円
間接損害等その他	3,532億円	3,818億円
III. 共通・その他	20,917億円	18,113億円
財物価値の喪失又は減少等	14,756億円	13,819億円
住居確保損害	5,910億円	4,043億円
福島県民健康管理基金	250億円	250億円
IV. 除染等^{※2}	32,721億円	20,315億円
合計	103,895億円	87,301億円

※1 振込手続き中の方も含まれるため、これまでのお支払金額とは一致しません。

【B/A 84%】

※2 閣議決定及び放射性物質汚染対処特措法に基づくもの。

<ご案内を開始している主な賠償項目>

	個人	法人・個人事業主
2011年	8月:個人本賠償 ・精神的損害 ・就労不能等に伴う損害 ・検査費用 ・避難・帰宅・一時立入費用 ・生命・身体的損害 等	9月:法人本賠償 ・営業損害 ・出荷制限指示等による損害 ・風評被害 ・間接損害 等
2012年	2月:自動車に対する賠償 自主的避難等に係る損害に対する賠償 7月:建物の修復費用等に係る賠償	2月:自動車に対する賠償 12月:償却資産および棚卸資産の賠償
2013年	3月:宅地・建物・借地権等に係る賠償 家財の賠償 11月:田畑に係る賠償	3月:宅地・建物・借地権等に係る賠償 11月:田畑に係る賠償
2014年	1月:精神的損害(要介護者さま等への増額)に係る賠償 3月:移住を余儀なくされたことによる精神的損害に係る賠償 早期帰還に伴う追加的費用に係る賠償 避難指示解除後の相当期間に係る賠償 仏壇の賠償 4月:住居確保に係る費用の賠償 7月:墓石等の修理に係る賠償 9月:宅地・田畑以外の土地および立木に係る財物賠償 自主的除染に係る費用の賠償	9月:宅地・田畑以外の土地および立木に係る財物賠償 自主的除染に係る費用の賠償
2015年	2月:家財の個別賠償 3月:福島県の避難指示区域以外の地域における立木に係る財物賠償 4月:墓石等の移転に係る賠償 6月:避難指示解除準備区域・居住制限区域における精神的損害の追加賠償	3月:避難等対象区域内の農林漁業以外の事業者さまに対する仮払 福島県の避難指示区域以外の地域における立木に係る財物賠償 6月:新たな営業損害賠償等
2016年	2月:住居確保費用(持ち家)の賠償における賠償上限金額の見直し	12月:農林業者さまに対する2017年1月以降の営業損害賠償等
2017年	2月:住居確保費用(持ち家)の賠償における賠償上限金額の見直し	12月:平成30年以降の避難指示区域外の農林業における風評賠償
2018年	1月:移住を余儀なくされた区域における住居確保にかかる費用の賠償のお取り扱い 3月:2018年4月以降における個人さまの避難・帰宅等にかかる費用の賠償のお取り扱い	8月:2019年以降の避難指示区域外の農林業における風評被害について
2019年	2月:住居確保費用(持ち家)の賠償における賠償上限金額の見直し	

<ADRの対応状況>

2019年3月8日現在

申立件数		24,561件
解決件数		23,497件
	全部和解件数	18,983件
	取下げ件数	2,551件
	打切り件数	1,961件
	却下	1件
	和解の仲介をしない	1件
現在進行中の件数		1,064件

出典：原子力損害賠償紛争解決センターHPより






※申立件数のうち、当社に送達がなされているのは24,377件(2月末現在)

※当社に送達された件数は月平均で約87件(平成30年度)

※現在進行中の件数のうち、82件は一部和解が成立している

※和解金額は約3,109億円

2月の活動実績

除染	中間貯蔵	廃棄物・リサイクル	環境回復・コミュニケーション	その他
				
1,573人 (35%)	2,000人 (45%)	88人 (2%)	620人 (14%)	196人 (4%)

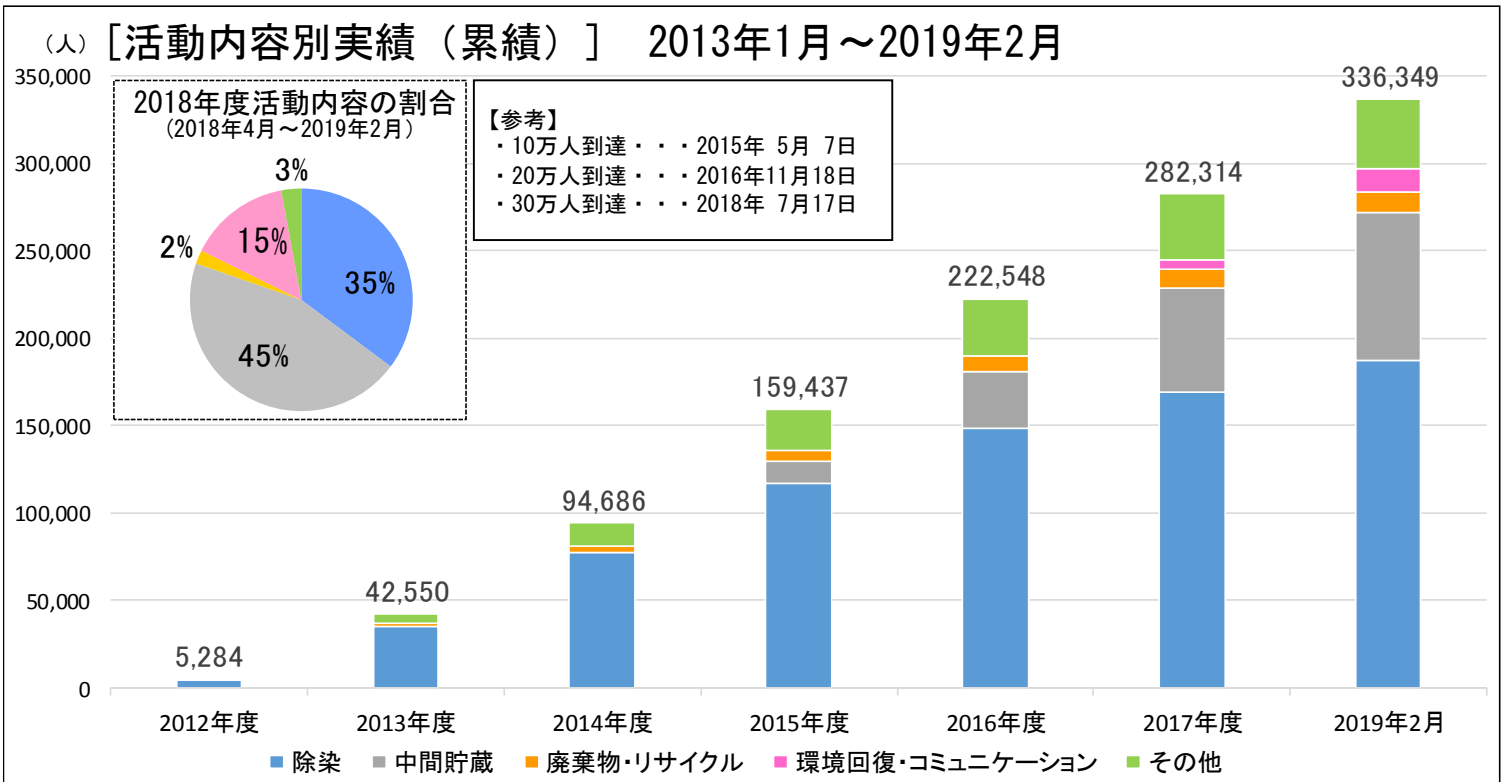
中間貯蔵等に関する研修への講師派遣等

2月の活動実績合計

4,477人

復興本社設立（2013年1月）からの累計

336,349人



至近の主な取り組み



「中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送に係る研修」の講師対応



大熊IC開通に伴う町道等の自由通行化に向けた対応

大熊IC開通に伴う町道等の自由通行化に向けた対応

実施時期 2019年1月8日～23日

実施場所 大熊町 県道35号～国道6号間の町道や県道

実施人数 社員 延べ6人

実施内容 内閣府からの要請により、本年3月末の大熊IC開通を控え、同ICから中間貯蔵施設、県道35号までの町道や県道の自由通行化へ向け、自動車で行った際の放射性物質の影響を確認するため、走行・歩行モニタリングによる空間線量率測定、大気浮遊粉じんの採取等を実施



歩行モニタリングの状況



空間線量率測定区間

調査結果については、内閣府が平成31年3月13日に公表した「県道35号—国道6号間の大熊町道等の調査対象区間の線量調査結果について」を参照 URL : <https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/kinkyu/hinanshiji/2019/0313.html>

「中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送に係る研修」の講師対応

実施時期 2019年3月13日 (2016年6月～継続実施) ※今回で40回目

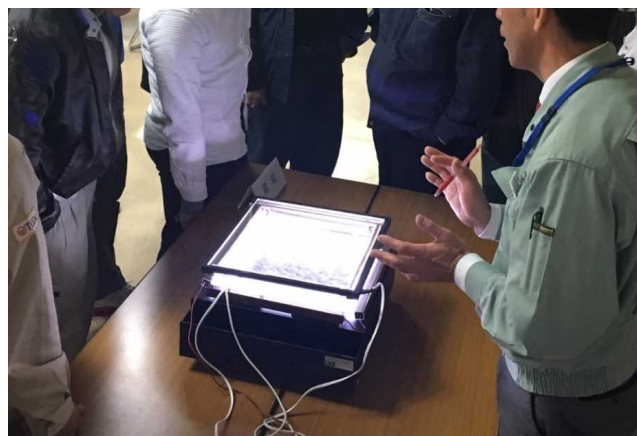
実施場所 いわき市

実施人数 社員 1人 (社員延べ40人)

実施内容 環境省からの要請により、中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送に係る研修において、輸送車両の運転手および管理者(受講者127名)に向けて、放射線の基礎知識と霧箱による放射線の可視化実験について講師として協力
これまでに累計3,728名が研修を受講(輸送車両の運転手2,821名、管理者907名)



放射線の基礎知識に関する研修会の実施状況



霧箱による放射線の可視化実験

2月の活動実績

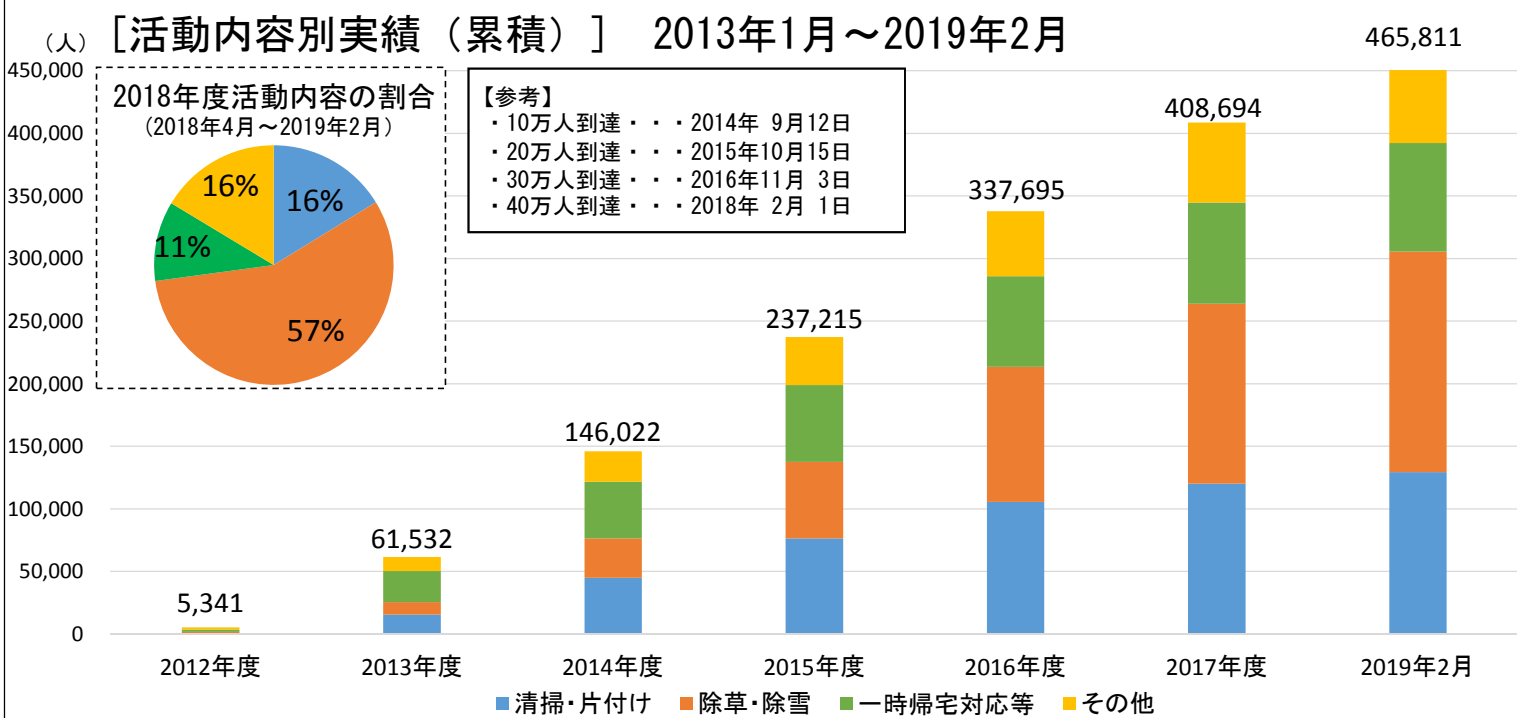
清掃・片付け (屋内清掃・大型家財搬出等)	除草・除雪 (町道・住宅進入路・公共施設等)	一時帰宅対応等	その他 (イベント運営補助・介護研修会等)
			
701人 (22%)	1,425人 (44%)	501人 (15%)	623人 (19%)

2月の活動実績合計

3,250人

復興本社設立 (2013年1月) からの累計

465,811人



至近の主な取り組み



3. 11ふくしま追悼復興祈念行事「キャンドルナイト」への協力

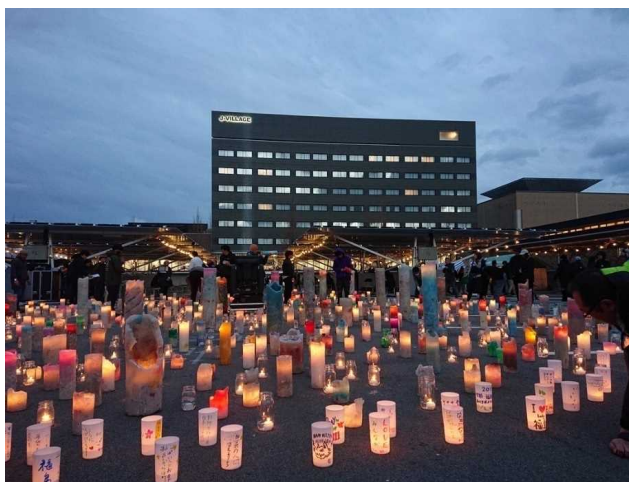
実施時期 2019年3月10日、11日

実施場所 榎葉町・広野町（Jヴィレッジ）

実施人数 社員 延べ30人

実施内容 福島県相双地方振興局からの依頼により、福島県内各地で開催された追悼祈念行事のうち、Jヴィレッジでの「キャンドルナイト」において、会場内での来場者誘導および駐車場での車両誘導を実施

<活動の様子>



キャンドルナイトの様子[2019年3月11日撮影]



会場の様子[2019年3月10日撮影]



来場者誘導の様子[2019年3月10日撮影]



来場者誘導の様子[2019年3月10日撮影]

「浪江町芸能祭」への協力

実施時期 2019年3月2日

実施場所 浪江町

実施人数 社員 6人

実施内容 浪江町教育委員会からの依頼により、浪江町地域スポーツセンターで開催された「浪江町芸能祭」において、会場内での来場者誘導・ご案内等の運営補助ならびに祭典終了後の片付けを実施

<活動の様子（撮影：2019年3月2日）>



会場の様子



祭典終了後の片付けの様子

「なみえ復興祭」への協力

実施時期 2019年3月16日

実施場所 浪江町

実施人数 社員 10人

実施内容 なみえ復興祭実行委員会からの依頼により、浪江町地域スポーツセンターで開催された「なみえ復興祭」において、会場内での来場者誘導・ご案内ならびに荷物の運搬等の運営補助を実施

<活動の様子（撮影：2019年3月16日）>



実行委員長ご挨拶と会場の様子



会場ご案内の様子

「発見！ふくしま」キャンペーンの取組実績について

目的 消費者の皆さまが福島県産品に触れる機会を創出し、県産品の魅力や美味しさを伝え、福島ファンの輪を広げるとともに定番化につなげる

期間 2018年9月12日～2019年2月28日

実施場所 東京23区を中心とした首都圏等（1都5県1府）

※東京、千葉、埼玉、神奈川、茨城、愛知、京都



2018年

9月

- 「発見！ふくしま」キャンペーン特設サイト開設・LINE「ふくしま応援隊」の配信開始（9/12～）
・イベント情報や記事・動画等、福島県産品の魅力を発信



■キャンペーン特設サイト



■LINE「ふくしま応援隊」

- 【オープニングイベント】JR品川駅構内での販売会（9/14・15）
・福島県産品（お米・野菜・果物等）約80品目を完売
・購入者：約1,500人



■京王ストア様での販売会の様子(9/29)



■JR品川駅構内での販売会の様子(9/14)

- 新米試食販売会（9/29・30）
・クイーンズ伊勢丹様（1店舗）
・京王ストア様（2店舗）

10月

- 動画「はらくっち！ふくしま」を公開（10/17～）
・航空会社Pe a c h様と連携し、福島の魅力をお届けする動画を作成（両社HPで公開）



■動画「はらくっち！ふくしま」

- 新米試食販売会（10/18・19・22・23）
・東急百貨店様（1店舗）



福島牛



川俣シャモ



福島牛



試食会

- 福島牛・川俣シャモの産地見学会・試食会（10/30・31）
・フードサービス研究会様の会員である老舗・名店の飲食店様7社をお招きし、J A全農福島様のご協力のもと開催

■産地見学会・試食会の様子(10/30・31)

11月

- 福島を応援いただける外食企業との連携（11/7～）
・福島牛や川俣シャモのメニューを「響」「鳥どり」のブランドで提供して下さっているダイナック様による福島牛・川俣シャモを使った「ふくしま応援隊」限定割引メニューをLINE等にてご案内



■ダイナック様による「ふくしま応援隊」限定割引メニュー

- 「ふくしままつりinパングラ広場」（11/10・11）
・ふくしま応援企業ネットワークと御徒町駅南口商店会様との共催
・来場者：約1.4万人
・福島県産品（野菜・果物・加工品等）約60品目を完売
・松坂屋上野店様とのコラボ企画「ふくしまフェア」も実施



■「ふくしままつりinパングラ広場」の様子(11/10)

2018年 12月

- 新米試食販売会（11/23・24、12/1・2）
・東急ストア様（10店舗）
- 福島牛試食販売会（11/30～12/2）
・クイーンズ伊勢丹様（2店舗）
- LINE「ふくしま応援隊」友だち登録
10万人到達（12/19）



■東急ストア様での販売会の様子



■クイーンズ伊勢丹様での販売会の様子

2019年 1月

- 羽田空港免税店にて「ふくしまのお酒」が初の常設販売（1/1～）
・東京国際空港ターミナル様と福島県酒造協同組合の蔵元様
のご協力のもと、2018年4月から6月にかけて開催された
「ふくしまのお酒」に限定した「福の酒」特別試飲キャンペーン
を通じて常設販売につながる
- 「dancyu 2月号」で特別メニューを紹介（1/5発売）
・10月に開催した「福島牛・川俣シャモの産地見学会
および試食会」を通じ、老舗・名店の飲食店7社様
において特別メニューの提供につながるとともに県産品
のブランド力向上に向けた情報発信を展開



■特別試飲キャンペーンの様子(4月～6月)



■常設棚の様子(1月)



■グルメ雑誌「dancyu 2月号」

2月

- 航空会社様の機内誌に福島の魅力情報を掲載（2/1～）
・「翼の王国 1月号」（ANA）では、老舗料理店様をお訪ねし、
福島牛の魅力を紹介
・「翼の王国 2月号」（ANA）と「SKYWARD 2月号」（JAL）
では、5つ星お米マイスターより、福島のお米の魅力を紹介
- 小冊子「福島グルメフェア」の作成・配布（2/1～）
- 福島県産米、福島牛試食販売会（2/21～2/24）
・クイーンズ伊勢丹様14店舗で福島県産米、福島牛、六次化
商品などを「ふくしまフェア」として販売



■JAL「SKYWARD 2月号」



■小冊子「福島グルメフェア」



■クイーンズ伊勢丹様での販売会の様子



キャンペーンの主な実績（まとめ）

- 1 半年間にわたって首都圏等で集中的にイベントを開催
⇒小売店・外食店と連携したイベント・フェアを開催【延べ115箇所、小売店のイベントは延べ219日間】
※特設サイト等を通じて、消費者の皆さまから購買意識（アンケート）を収集【約1.2万人】
⇒東電グループやふくしま応援企業ネットワークで社外マルシェを開催【30回】
- 2 イベント会場での試食販売等を通じて、消費者の皆さまに「美味しい体験」を提供【約2.2万人】
- 3 小売店・飲食店でのイベントを通じて、消費者の皆さまの購入意欲を促進し、常設棚での福島県産米販売や福島県産品を使用したメニューとして定番化【17社88店舗】
- 4 福島県産品の美味しさや魅力について、様々なメディア（雑誌・動画・LINE）を使って発信【136回】
- 5 LINE「ふくしま応援隊」を使った福島ファンのネットワーク作り
⇒友だち登録者【約18.2万人】
⇒イベント開催や友だち限定割引等のお得な情報、料理レシピを配信【96回】※上記④の発信回数【136回】に含まれる